



# 首都圏

# 遠之架

富山薬窓会首都圏支部

## 目 次

支部長ごあいさつ	(60、S48年卒) 中西 憲幸	1
総会での話題提供①「血液と脳の物質交換を制御する薬物運搬体」	(10、H29年卒) 手賀 悠真	2
総会での話題提供②「12年前、ひとりから始めた医薬品開発受託会社(CRO)、ドタバタ起業奮闘記」	(76、H元年卒) 折戸 哲也	2
42歳のチャレンジ	(84、H9年卒) 宅和 知文	3
変化を楽しむ～立山登山を題材に～	(93、H18年卒) 齋藤 智之	4
きんき支部長と愉快的仲間たちー継続と品位と発展とー	(76、H元年卒) 安居 輝人	4
富山薬窓会 愛知県支部から	(62、S50年卒) 原 和子	5
最後の「四六会」	(46、S34年卒) 川畑 耕祐	6
佐々成政の「さらさら越え」と「鍬崎山埋蔵金」の伝説	(62、S50年卒) 加藤 輝隆	6
無音の音楽	(97、H22年卒) 宅間祐太郎	7
ゴルフ同好会90回記念		
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 石橋 嘉夫	8
これから10年、20年 挑み続ける情熱を～50代の助走から始まるゴルフライフを！～	(47、S35年卒) 小国 益男	8
平成29年度首都圏支部活動報告・支部役員		12
平成29年度会計報告、平成30年度予算(案)		13
平成29年度 支部年会費納入者一覧		14
編集後記		17
平成30年度定期総会開催案内及び会場交通案内		18
平成29年度首都圏支部総会集合写真		19



## 最近の話題

富山薬窓会首都圏支部長（㊟、S48年卒） 中西 憲 幸

3月23日の富山大学薬学部の卒業生主催の懇親会は、稲田裕彦薬窓会長の配慮により、富山・石川合同支部、首都圏支部、新潟県支部、愛知県支部、福井県支部、近畿支部長がそれぞれ壇上に上がり、卒業生が支部会に参加するようアピールする時間を頂いた。私は宴席でややこしい話をして耳に入らないので、三金会の美味しい牛タンの話だけをした。牛たん屋の多津よしの名前は覚えられないので、「中西、牛タン」をググるとトップに出てくると紹介した。実際YahooでもGoogleでも「中西、牛タン」と入力すると、DIAMOND online（週刊ダイヤモンド）のページに飛んで、トップに「仙台仕込みの牛タンの軟らかさに感嘆！東池袋 多津よし（たつよし）」が出てくる。その理由は2007年11月1日の週刊ダイヤモンドに部・課長お勧めのお店の取材があり、広報室の担当者から依頼を受けたものである。11年前の記事がまだトップに出るのは嬉しい限りである。懇親会場で道見幹事長が精力的にリクルートしたお陰で、首都圏に就職する卒業生の7名のメルアドを知ることが出来た。6年連続でフレッシュマンが首都圏総会に参加しているので、連続記録を更新するとともに、複数の参加者を期待したい。

細谷薬学部長が任期満了により、4月より本学出身の酒井秀紀教授が薬学部長に就任された。酒井教授は毎年首都圏総会に参加し、楽しく大学事情を紹介して頂いているので、今年の総会でのお話が楽しみである。

富山大学の各学部が五福にあったことに因んで、五福会と称して年2回、経済学部が中心となり、工学部、薬学部、理学部が参加して話題提供を行っている。直近では東京富山会館で5月16日（水）18時30分から理学部関東支部長 渡邊賢亮様が、「関西家電3社の歩みと今後について」講演される。その次の担当は薬学部なので、どなたか話題提供をお願いします。

昨年末の中医協で面白い議論があった。医療機関から薬局に対し、検査値などを伝えた場合に、医療機関側に報酬を新設するという案が出された。しかし、診療側の反対に遭い、結局新設されなかった。支払側が「それはよい取り組みだ。評価してもよいのではないか」と言っているのに、臨床側が「必要ない」というのは異例。これは医師と薬局薬剤師の力関係が端的に表れた例である。

「薬剤師は医師の言うまま処方していればいい。検査を見て勝手に判断するのは、もってのほか」と考えていることがよくわかった議論である。一方臨床検査値付きの処方箋が大学病院など大型病院で発行されている。処方箋1枚から得られる情報は少なく、薬学的管理にも限界がある。薬物療法の安全性の確保のためにはもっと情報が必要である。そのため処方鑑査に必要な情報として、臨床検査値を処方箋に表示することになりつつある。結果として、処方箋に検査値を表示すると禁忌が防げるようになった。検査値異常に伴う症状を聴取するなど、患者の状態を踏まえた疑義照会に変貌しつつある。臨床検査値付き処方箋により、地域包括ケアシステムのなかで薬剤師が活躍でき、患者にとって薬剤師が薬の番人であることがわかってもらえる。

## 血液と脳の物質交換を 制御する薬物運搬体

(㉔、H29年卒) 手賀 悠真

地元の秋田から富山大学へ入学後、10年間を富山の地で過ごしました。富山と秋田は気候が似ており、非常に居心地が良かったのですが、つい昨年、博士後期課程修了という形で富山を離れ、東京で働き始めることとなりました。ようやく都会の人の多さにも慣れてきましたが、駅などで富山の観光パンフレットやポスターが目に入るたびに、富山の風土や人の良さを思い起こします。

私は、大学院生時に細谷 健一 教授の薬剤学研究室に所属し、生体内での薬物の組織分布メカニズムについて研究を行ってまいりました。現在所属する帝京大学 薬物動態学研究室においても脳への薬物の分布に関する研究を行っております。今回は、自分がこれまで行ってきた研究について簡単にご紹介しつつ、脳への薬物輸送について話題を提供させていただきたいと思っております。

脳は記憶や感情といった高次機能を司る体内の中でも重要な臓器の1つです。大脳皮質には140億個の神経細胞が存在し、相互が結びつくことで複雑なネットワークを構成し情報を伝達しています。複雑な脳の神経機能を維持するためには、脳内の環境を常に一定に保つ必要があり、その役割を担っているのが血液脳関門になります。

血液脳関門の正体は、脳毛細血管を構成する内皮細胞です。この内皮細胞は、細胞同士が強固に結合することで隙間のない血管を形成しています。隙間がないことで血液中から物質が脳内へと入り込むことを防ぐ、すなわち、血液と脳を隔てるバリアーの役割を担っています。さらに血液脳関門は、物質を選択的に輸送する能力を有しています。グルコースやアミノ酸といった栄養物は積極的に脳内へと供給される一方で、毒物や異物は脳から血液へ排出するようになっています。こういった血液-脳間の物質輸送を制御しているのが「トランスポーター」と呼ばれる膜タンパ

ク質です。

薬はヒトからみると外因的な物質、つまり異物となります。したがって、血液脳関門は、薬を脳の中に入れていないよう働きます。これが、中枢神経系薬の開発を困難にする1つの原因となっています。一方で、脳に入りやすい薬物というものも存在します。近年の研究で、薬物を脳内に積極的に運ぶトランスポーターが血液脳関門に存在することが明らかとなってまいりました。こういったトランスポーターを利用すれば、薬を効率的に脳内へ輸送することが出来るようになるかもしれません。

超高齢社会を迎えた日本では、アルツハイマー病といった中枢神経変性疾患の増加が問題となっており、その治療薬開発への期待も高まっています。しかし、効き目がある薬が完成しても、それを脳内へ届けることが出来なければ薬効は期待できません。首都圏支部総会では、脳における薬物輸送研究について最近の知見も含めご紹介させていただければ幸いです。

## 話題提供②

### 12年前、ひとりから始めた 医薬品開発受託会社 (CRO)、 ドタバタ起業奮闘記

(㉕、H元年卒) 折戸 哲也

平成元年卒(76期)の折戸です。治験・臨床試験の運営支援を行う通称「CRO企業」を起業し12年目を迎えました。今年、首都圏支部総会で「私の起業」にまつわる話題提供の機会を頂きました。支部総会では、起業から現在にいたるまでの様子をご披露しようと思っております。1991年3月に薬学部大学院を修了後、「医薬品開発の実感」を「直接的に味わえる「臨床開発部門」を希望し、山之内製薬・臨床開発部で、社会人人生をスタートしました。入社後は、血栓溶解薬、高脂血症薬、消炎鎮痛薬、過活動膀胱治療薬の臨床開発を担当させて頂きました。得意業務は症例登録活動の企画と根性、根性、ど根性の「外回り」が私の強みでした。そんな経営知識ゼロの私が、40歳を目前にして、ふと「自分の力」を

試してみたくなりました。起業したら「上手くいく」という何の根拠もない自信で、運転資金には退職金と換金できる保険などを全て解約して掻き集めた「2,300万円程度」でのスタートでした。当時は、ある企業経営者に事業計画を紹介したら、一言、『この程度の運転資金では「瞬殺」ですよ』と「楽観的」に退職を決めて起業をする私に「衝撃の一言」を頂いたりもしました。それでも何故か落ち込むことなく「できるところまでやってみよう」と思った私は、一人で会社登記し、社員募集を開始しました。一人で創った会社には、そう人は集まらないものですが、幸い、前職で繋がりがあった3名の社員が合流してくれることになり、起業人生がスタートしました。起業後はサラリーマン時代に何も繋がりがなかった多くの方々が私達の会社を助けて頂き、サラリーマン時代では経験できない「人のご縁」を体感しました。当初は「お金持ちになりたい」という気持ちも正直なところあったものですが、お客様や社員が増えてくると、「社会で活かしてもらえる会社」「社員が長く働いてくれる会社」になろうと思うようになるから不思議なものです。まだまだ、成長の過程で振り返るには早すぎるのですが、一人からはじめた会社も社員数は130名超になりました。自分の力を試すために起業し、30歳代で蓄えた仕事のノウハウを起業後の40歳代で使い切りました。50歳を迎え、創業した企業で何ができるのか、現在は60歳代でも活かしてもらえるようになりたいと、日々努力しているところでございます。

## 42歳のチャレンジ

(84、H9年卒) 宅 和 知 文

もう昨年になりますが、お腹の肉も気になり始めるこの頃(というかこの十数年)、一念発起して運動を始めることにした。何をしようかとそんな事をぼーと考えながらTVを見ていた正月休み、目に入った箱根駅伝の感動的なゴールシーン、余韻の勢いでネット検索し、締め切りが迫っていた4月のかすみからマラソン(通称かすマラ)にエントリーし

たのでした。今はネットでなんでも購入できるので、この様に勢いでポチることも多くなりました(苦笑)。元々中高と陸上部員だった事もあり(といっても幅とび、三段とびなど跳躍系が専門)、軽い気持ちでゴールできるだろうと考えていました。そう、当日までは。その様な甘〜い気持ちでエントリーし、ろくな練習もなしに臨んだ結果、当然ながら①20キロ過ぎ位からふくらはぎがピクピクし始め、②30キロからは走っては止まりの繰り返となり、③40キロからの2キロあまりは地獄の行脚となりました。何台か駆け付けていた救急車のお世話にならなくて本当に良かったです。練習不足を痛感しながら、大会の制限時間ぎりぎりの5時間59分36秒でなんとか帰って来ることはできましたが、ほろ苦い生涯初マラソンとなりました。後に聞くと、かすマラは天候や条件的に厳しく、あまり初心者向けではない? そうな。ただ、大会名誉のために一言添えると、沿道の応援や運営サポートが素晴らしく、非常に人気の大会でもあります。口惜しさ半分で次のターゲットに選んだのはフラットなコースで記録が出ると噂?の地元つくばマラソンでした。そして、もう少し真面目?に練習に取り組んでみることにしました。とは言っても一人で走り続けるのは限界がなあ・・・とっていた矢先、会費のみ支払う状態になりつつあったフィットネスジムで週2回、夜に外をゆっくり走る、その名も「Smileラン」なるランニング集団の存在を発見、混ぜてもらおう事にしました。夏は筑波山を毎週走りまわるというツワモノから、Smileランでしか運動しないという初心者まで色々なRUN友とも知り合い、夏場を乗り越えました。そんなこんなでゆる〜い練習を重ねて臨んだ昨年11月のつくばマラソンでは何とか4時間50分で最後まで完走することができました。まだまだ「良い記録」には程遠いですが、現在も2週間後(4/15)のリベンジ(かすマラ)に向けて日々精進しています。ジョギングは比較的初期投資も少なく、個々人で強度が調整しやすいので、始めやすい運動の一つだと思います。ランニング人口も増えている様ですので新しい友人づくりにも良いですよ。皆さんもいかがでしょうか、Let's

run!



## 変化を楽しむ ～立山登山を題材に～

(㊸、H18年卒) 齋藤 智之

2008年に富山を出て10年が経ちました。富山はあまり快晴に恵まれないのは皆さんご存知のことだと思いますが、初めて富山を訪れた時分に見て感動した雄大な立山連峰は今でも忘れがたいものがあります。晴れた日には富山市内より毎日のように眺めていた立山連峰も卒業し、富山を離れてからはめっきり見る機会が少なくなりました。

登山に目覚めるきっかけになったのは、修士1年の時、当時竹内義雄先生が率いていた合成化学研究室で助手をされていた藤原朋也先生に誘って頂いた槍ヶ岳登山でありました。当時は自分でろくに計画も立てず、ただ連れられていくといった状況でしたが、自分にとっては登山に挑戦し、現在の趣味へと繋がる一つの転機であったのではないかと思います。目前で見る山岳風景、山で感じる空気感というのは幼少の頃から長野県の山間で育った私の琴線に触れるものでした。槍ヶ岳に登って以降、数年間は登山から離れた生活をしておりましたが、山岳風景を間近に見たいという願望から入社を期にもう一度登山をするようになりました。

いくつか忘れられない登山の経験をしましたが、その中でも、一昨年の残雪期に登った立山は、富山の市内から見るのとはまた違った感動がありました。その感動の根源にあるものは登山の前後で立山(連峰)が目で見えて楽しむものから、五感を使って感じ、楽しむ

ものという様に価値観に変化があった点にあるのだと思います。一步一步アイゼンを効かせ、息を弾ませ登った急登、肩に食い込むザックの重み、吸い込む山の空気から感じる冷たさ、雷鳥との出会い、縦走することで次々と変化する眼前の景色、全てが新鮮、かつ素晴らしいもので、これまで“見ること”による立山連峰の美しさしか知らなかった自分が、登ってみて初めて気づいた感動でした。

私生活も仕事も往々にしてですが、何事も挑戦することで今までとは違う見方や価値観が生まれます。それは自分だけで変化していくのではなく、出会った人々に大きく影響を受けて大きな流れの様に変わっていくものだと思います。

さて、首都圏支部薬窓会総会では世代を越えて普段あまりお会いできない諸先輩方、後輩の方々とお話をできる機会が提供されています。縦、横共に人脈を広げ、情報交換をし、刺激しあう良い機会だと思いますので、自分を変化させ、成長させる一助に成るものと思います。総会でお会いした際にはお声がけ頂けると光栄です。



別山より劔岳

## きんき支部長と 愉快的仲間たち — 継続と品位と発展と —

(㊸、H元年卒) 安居 輝人

富山薬窓会首都圏支部の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。昨年より富山薬窓会近畿支部支部長を拝命いたしました安居輝人と申します。76回(平元)

卒の弱輩者であります。富山薬窓会の「継続」と「発展」を期すべく、「品位」をもって努力する所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

という堅苦しい前口上はここまでの、首都圏支部の皆様には、想像もつかない「富山薬窓会近畿支部」のこれまでの活動をご紹介します。

アングラ（アンダーグラウンド：地下の意）での「山金会」は、少数ながら「濃い」メンバーで月一回開催されている。個性的で、絶対揺るがない信念をお持ちの渡辺前支部長（59回卒）が率いる山金会は、首都圏支部「三金会」と同様に、毎月第3金曜日に開催される近畿支部月例会であるが、首都圏支部とは決定的に異なる。前述の通り、山金会は「アングラ」である。とあるホテルの地下ラウンジ一角を陣取り、店オープン当時から「ヌシ」であるがごとく、大の大人が大声で笑い、そして時には「品位」を欠くことがあるのだが、総じて歓談している。去春で、山金会は開催回数150回を超えた。何気なく参加していると感じ得なかったのだが、現立場にある支部長の視点で改めて見直すと、参加されている先輩方の努力が顕在化する。緻密な渡辺前支部長、そして彼をフォローする小林正明（60回卒）事務局長、宮本金夫（60回卒）幹事長の結束力が、山金会の「継続」につながっていたのだと実感する。近畿支部懸案事項は、実質、山金会の場を借りて、役員たちで協議され、その決定プロセスは、完全な合議制である。しかし、その他、強力な方向性を打ち出す外野の山金会参加の先輩方もおり、ご意見を賜っている。さらに、年2回山金会と共に開催される遠久朶寮寮生会の大先輩方から、叱咤激励をいただく。その中で、時には「トップダウン」形式のご意見もあるのだが、（何度も泣かされたが）理にかなっているので、役員内で咀嚼させていただいている。まあ、考えてみれば、小職が、いつどのタイミングで支部長になろうが、先輩方にとっては、いつまで経っても「一後輩」であることには間違いない。

首都圏支部と同様に、近畿支部も年1度総会を開催させていただいている。毎年70余名

規模で会員にお集まり頂き、総会議事承認、話題提供を行っている。先述「品位」の話題に触れたが、近畿支部総会の「品位」はどこにあるだろうか？と考察してみた。少なからず、私が参加した過去の近畿支部総会において、話題提供の一つとして基礎科学研究が取り上げられている。おそらくこの一連の流れは、渡辺前支部長の強いご意思かと感じる。社会に出てから、いろいろな薬業分野で活躍されている方々にとっては、大学や公的研究機関で行われている一見「カネを生みそうもない」、難解な（時にはいらぬ専門用語や、間違った仕様で英語を連発する）基礎科学研究の紹介は、苦行以外の何者でもない。しかしながら、この「非日常をルーチン化する」試みは、ある意味近畿支部総会の「品位」（人に備わっている向上心）であると感じる。ちなみに、今文字を起こしているこの時点では、より高い「品位」を求めて、ご高名な同窓研究者を招へい予定である。私も基礎研究者の端くれとして、ぜひ「発展」させたい試みである。

遑って、山金会における「品位」の一時的欠落を再考察すると、会に参加している薬剤師免許を有する方々は、免許の取消しをされていない。つまり、法的には「品位」があると認定されているのであろう。間違いなく薬剤師法にもそう明記されている（第八条二項免許の取消し等・・・薬剤師としての品位を損するような行為のあつたときは・・・）。

現在は、稲田裕彦、酒井秀紀両先輩を中心とした全国的で、なおかつ「発展」的な「会長と愉快的仲間たち」に想いを馳せ、日々過ごす小職である。

## 富山薬窓会 愛知県支部から

（㉔、S50年卒） 原 和 子

初めまして、昨年首都圏支部総会にお邪魔したご縁で、今回は首都圏遠久朶に愛知県支部の紹介をさせて頂く事になりました。

森田裕三先輩㉔が長く支部長を務めて下さり、現在は柴田辰美さん㉔に引継がれており

ます。愛知県支部では、毎年定期総会・親睦会を開催しています。

ここ数年は母校から新田教授が参加して下さり、母校の現状や新田教授の薬物治療学研究室による薬物依存を解明する研究のご講演が有ります。どの様に研究が進んでいくのか楽しみにしています。総会の後は、近況報告や、学生時代の逸話等楽しい話は尽きません。

連絡係の中川千秋玲さん<sup>㊤</sup>は「私の好きな支部のいい所は、先輩方の人柄と、個性的な生き方だと思います。支部からいつもエネルギーを貰えます。」とコメントしてくれました。H29年トピックス：中村富貴子先輩<sup>㊤</sup>は旧薬局を改装して認知症カフェを開き地域に密着した活動をしておられます。(会報誌薬苑) 布目晃子先輩<sup>㊤</sup>は通訳案内士として海外からの観光者に流暢な英語で名古屋城や白川郷等を案内しておられます。(中日新聞)

長い年月受け継がれて来た良き伝統を守り、幅広い年代の同窓生が楽しく集える愛知県支部をどうぞ宜しくお願い致します。

皆さんも機会があれば是非ご参加ください。

富山薬窓会HPから「愛知県支部」を選び閲覧して下さい。H30年定期総会の案内は7月に掲載予定です。

## 最後の「四六会」

(<sup>㊤</sup>、S34年卒) 川畑耕祐

昭和34年度卒業生の集まり「四六会」が去年の10月24、25日の両日、富山市のリバートリート「雅楽俱」で開催され、27名が参加しました。

この会は卒業10年目の第1回(富山市宇奈月温泉)を皮切りに、第2回以降は5年毎に、第6回以降は3年毎に、第10回以降は2年毎に、第13回以降は毎年開催されていましたが、会員の高齢化(全員80歳以上)で、今回の富山での開催で最後の有終の美を飾る事になりました。これまで、富山、首都圏(各6回)、関西(4回)、東海(2回)、沖縄、岡山、東北(各1回)で開催され、最後の22回はやはり原点である我々の「心の故郷」富山での開

催と相成りました。

会場の「雅楽俱」は、神通川の上流(旧笹津地区で現在は合併で富山市)にあり、地元の住民の間でも金持ちが利用する高級リゾートクラブとして知られています。

小生は第2回の熱海での会だけは出席できませんでしたから、残り21回の会には出席しております(会員の中には全22回皆出席の方も居られました)。卒業生80名中物故者は21名(死亡率26%)で、小生の中学高校の同級生の死亡率30%よりも少なく、やはり薬学を学んだ者としての健康管理への認識の高さを痛感しました。

欠席者の多くは、自分の家族を含めて体調を悪くされている方々で、1日も早いご快復を祈念致しました。懇親会ではそれぞれの近況報告と自分と家族を含めての病との戦い、介護の苦労話等がありました。また、現在も現役で仕事に精を出している方、健康を保つには散歩、運動、家庭菜園、カラオケ、スキー、ゴルフ等を楽しんでコミュニケーションされている方々と色々でした。一人の会員の方から「70歳からの健康づくり実践」の紹介があり、やはり健康は富、仲間は宝、命は信である事を痛感しました。

今後の集いについては「四六会」のご縁を大事にしながら、幹事に手数をかけない様「有志の会」(昼食会)として存続する事になりました。

毎年4月16日(46回にあやかり)のお昼に現地集合、現地解散、当日精算、当日のホテルは各自が申し込む事にし、来年は4月16日に福井市勝山市田辺(幹事 木村禎子さん)で開催する事になりました。最後の「四六会」が富山で有終の美を飾れた事を全員で感謝し、来年福井での「有志の会」で再会する事を誓って散会しました。

## 佐々成政の「さらさら越え」と「鍬崎山埋蔵金」の伝説

(<sup>㊤</sup>、S50年卒) 加藤輝隆

今から12年前の8月、富山テレビの取材で富山県内のみならず奥飛騨、木曾、大阪で樹

齢約500～1000年のスギ、ヒノキ、イチイの大きな円盤から年輪幅を読み取ったことがあります。番組の構成としては、信長の死後、織田家の再興を願う富山藩主の佐々成政が、家康に再決起を促すため、厳冬期に立山のザラ峠を越えて浜松まで行ったとされる天正12年（1584年）は暖冬で雪が少なかったのではな  
いか...それを樹木の年輪幅から推測する...  
といったものでした。低濃度の大气汚染の影響をスギの年輪から解析していた私が依頼を受けて、ずいぶん苦労しながら年輪幅を測定したものです。その中で、奥飛騨の福地温泉近くの岩場に生えていたという推定樹齢1000年以上のイチイの円盤では確かに1584年の年輪幅が広く、暖冬・小雪説と矛盾しないという結果が得られました。偶然にも雪が少ない冬だったのでザラ峠越えを決行できたのだらうと、私も思っていました。

ところが、成政が越えたのはザラ峠ではなく奥飛騨の中尾峠であることを示す史料が近年になって発見されたとのこと。「さらさら越え」や「鋤崎山の埋蔵金」が伝説と断定されてしまうのは、富山県に縁のあるものとしては寂しい気もしますが、富山城主であった5年足らずの間に暴れ川の常願寺川に石積み  
の佐々堤を築き、金山の開発や富山城の大改修を行った成政に対する領民の親しみの気持ちを反映して伝説が生まれたのかと思っています。

低濃度の大气汚染の影響を解析するために樹木年輪に興味を持った私ですが、この20年間は富山県自然保護課の立山植生モニタリング調査に携わっており、去年は学生と一緒にサンプリングしたスギ倒木の円盤から江戸中期～明治期の強風の履歴を復元しました。

## 無音の音楽

(㊦、H22年卒) 宅間 祐太郎

正直まさか自分がここに書く日が来るとは思ってもいませんでした。私は2010年に大学を卒業し、その後他大学の院に進学、現在は某製薬会社の研究職として働いています。今回寄稿するにあたって何か良い薬学系の小話

はないかと考えたのですが、大して面白い話も浮かばなかったもので、少し趣味の話でもしようかと思います。

私は大学から弦楽器を始め、部活は管弦楽団に入っていました。在学中に楽器を買っていたおかげで、現在でも埼玉を拠点に東は栃木、西は大阪まで多岐にわたって活動しています。もう楽器を始めて10年以上経つので、レパートリーは大分増えてきたと思っていたのですが、昨年とんでもない曲を弾く機会がありました。それがタイトルにも書いてある、文字通り「音のない音楽」で、ただひたすら何もせず座っているだけの曲です。なんじゃそりゃ、と思うでしょうが、現代音楽の世界では王道の曲もある一方で、他とは違う手法を使った演奏をするぶっ飛んだ曲も多数あります。その中でもこの曲は極端な部類に入るかと。

ジョン・ケージ作曲、通称「4分33秒」というこの曲は、ピアニストのデイヴィッド・チューダーが第1楽章を33秒、第2楽章を2分40秒、第3楽章を1分20秒で初演した合計が4分33秒だったことから名づけられています。作曲家の意図としては、奏者が無音を創る事で生み出す環境音という偶然性の音楽を感じよう、ということらしいです。実際にオーケストラで演奏してみると、第1楽章では曲を知らない観客が一部ざわめきだし、第2楽章は理解して静かになるものの、第3楽章で飽きた子供たちがささやきだす、といった楽章ごとに違った音楽(?)になっていったのがとても印象的でした。まあ、最後回収したアンケートでの評価は予想通り散々なものが多かったですが・・・。

余談ですが、この曲の通常の演奏時間は4分33秒なもの、これはあくまで初演の際の長さを参考にしたものであって実際にはどんなに長くてもかまわないそうです。今回初めて知ったのですが、著作権料は曲の長さが5分以下と5分以上で異なるらしく、この絶妙な長さの曲はあと少し長く演奏してしまうと値段が跳ね上がってしまうとのこと。逆に演奏時間が短くても曲とみなされるので、著作権問題の厳しいこのご時勢、少しでも黙っていると著作権料を払えと言われる日が来るか



もしませんか。沈黙は金（カネ）なり？

## ゴルフクラブ便り

首都圏支部のゴルフ同好会も昭和46年に第1回を武蔵野GCにて10名でスタートしてから10月の会で90回を迎えることになりました。

今回90回の記念大会を終了し、この伝統ある会に思いを寄せて、投稿をメンバーで47回卒の小国益男氏に事務局からお願いし、原稿を頂きましたのでご紹介いたします。

また事務局から89回と90回の結果を合わせて報告します。

（事務局：㊟、S43年卒 石橋 嘉夫）

## これから10年、20年 挑み続ける情熱を 50代の助走から始まる ゴルフライフを！

（㊟、S35年卒） 小 国 益 男

同じ学舎で学びし仲間達が季節の変わり目に芝生の上でゆったりと、遠き富山の奥田、五福の良き情景を思い浮かべながら、触れ合う和やかな歓談、明るい雰囲気の中で、温かい絆と信頼の輪が広がっていく。

支部の支援を得て、富山薬窓会首都圏ゴルフ同好会が生まれて46年、開催回数は実に90回、参加人数は延べ2,000名を数える。

昭和46年9月、豊かな健康への夢をえがいで50代から助走せし薬窓仲間が八王子武蔵野GCに集い誕生したと言われている。

千原秀夫氏（40回卒）を筆頭に先人達が築きあげし情熱溢れる志は今日まで脈々と受け継がれ、只今、会員総数40名（内女性5名）、年2回（4月&10月）開催されている。

今年度の90回記念コンペは、清秋の10月那須高原にて開催し、酒を酌み交せし明るい燈下、仲間の尺八吹奏なでる音の響きに耳を傾けながら、感動的な前夜祭の宴の素晴らしき思い出を胸の内に。再開を約す。

互いに100回プレミアムコンペに参加しようと誓いながら・・・・・・

気軽に参加してください。楽しい仲間との語らいに。新しい自分の発見を。

同好会入会を希望される方は、下記幹事宛で連絡ください。案内状をお送りいたします。

### ※幹事

㊟、S43年卒 石橋 嘉夫  
〒166-0012 東京都杉並区和田3-41-23  
Tel&Fax：03-3316-0348

㊟、S46年卒 石井 誠司  
〒134-0087 東京都江戸川区清新町  
1-4-5-703  
Tel&Fax：03-3878-0184

### 【第89回コンペ総括】

平成29年4月13日（木）八千代ゴルフクラブにて17名の参加で開催された。前日は朝から大雨と強い風が都内の桜の花を葉桜にしてしまう天気であったが、当日は快晴で八千代市は未だ桜が満開で最高のお花見日和になった。その成果か100を切った人はなんと4名しかいなく、皆さん花を楽しんだようでした。

優勝は久しぶりに47回の関誠さんがネット73.8でした。準優勝は57回の藤村元成さん、3位は実力者の47回の小国益男さんがBG賞と合わせて入賞されました。

17名中、後期高齢者が10名とあの若かりし頃のあの迫力はどこに行ってしまったのだろうか？と思わずにいられません。因みにミドルホールで第一打（コース設定上175ヤードを打つことが求められていましたが）を一番若い大塚幹子さんはアイアンで予定通りにヒットしました。片や名誉のために名前は伏せませんがドライバーを使用した先輩がいらっやってショックを受けておられました。

しかし、表彰式の会場ではそれ相応に頑張ったと和気藹々と歓談し、次回は10月の中ごろ90回の記念になる大会に向け健康でお会いいたしましよとの事務局からの連絡で解散した。

### 【第90回コンペ総括】

今回は90回という記念コンペのため、前日宿泊して日頃の会の思い出等を語り合える場を作ることにしました。スケジュールは概ね

次の通りです。

29年10月4日栃木県矢板市の温泉施設「コリーナ矢板」に自家用車やJRで夕方に着いてもらいました。早速に入浴し汗を流した後宴席に移りました。数年前と違いアルコールの量が少なくなりましたが、時間が経過するにつれゴルフの話から岩瀬浜の寮生活や下宿先の話に花を咲かせましたが、驚いたのは昨日の出来事のように具体的な名前がポンポン出て、半世紀以上前に共に過ごした学生時代にタイムスリップしました。余興として58回の加藤健二さんから趣味で取り組んできた尺八の演奏もあり、楽しい思い出を作ることができました。また、当日は中秋の名月に当り外に浮かぶ東京では見たことのない真っ赤で大きなお月様を手が届く近さで愛でることができたのも幸せを感じさせました。

翌5日は朝食後JR組も自家用車に分乗し、近くのアローエースGCに向いました。昨日から急に秋の気候になり寒さを感じていましたが、時間がたつにつれ暖かくなり最高のゴルフ日和になりました。今回は仕事や体調により12名の参加となりましたが、優勝は実力者の47回小国益男さん、準優勝は44回の高木良造さん、そして3位には48回の川上惇さんが獲得しました。BG賞は47回の関誠さんでした。新ペリア方式のハンデによる成績で各ホールでの成績と合わせ皆さんから色々挨拶を頂きながら経過を楽しみました。

次回は4月を予定し、少しでも多くの方が参加できるようにご協力をお願いしたいと事務局より話があり解散した。

(事務局：⑥⑤、S43年卒 石橋 嘉夫)



## 近況報告

2017年首都圏支部総会出欠連絡などから

④③、S31年卒 本多 存  
高齢になり免許証を返上、専ら歩いて過ごしています。本年1月からですので少々不自由です。でも事故なく昭和39年から続けられてきたことが感謝です。

④④、S32年卒 鈴木 芳子  
獅子会(44回)の集いが5月8日大阪新阪急ホテルでありました。16名が出席しました。9月有志で姫路城を見学。歩き廻り疲れしましたが、見応え充分楽しかったです。

④⑤、S33年卒 大郷 利治  
昨年暮れには体調も回復し、ほぼ毎日10,000歩以上歩いています。筑波大学病院の患者向けライブラリーで週1回のボランティアも行っています。4月には琴平さんの785段を登り、5月には熊野古道を歩いてきました。秋には満82歳になりますが、気力・体力を維持したいと願っています。

④⑥、S33年卒 水野 一彦  
年齢相応に身体的、精神的にも劣化が認められます。最近では鍛えるのではなく、なるべく使うようにしております。

④⑦、S35年卒 小国 益男  
新緑の季節、90回を越える薬窓会ゴルフ。千原秀夫(40回)、平井喬(41回)氏ら諸先輩の多大なご盡力で誕生した。同じ学舎に学び仲間達の和やかな笑顔と歓談に包まれし愉しき集い。これからも末永く引継がれ、健康と友愛の良き担い手にならん事を願う。

④⑧、S46年卒 穂苅 茂  
リタイアして4年目に入りました。冬にはスキー、夏はお祭り、その間は畑で野菜作り。楽しくやっています。

④⑨、S37年卒 土方 久家  
京大病院ががん等の患者に免疫療法の薬剤としてセレン0.5μg溶液をつくるオーダーに

対して、薬剤師が千倍もの濃度のセレン溶液を作り、患者さんに投薬し亡くなりまして病院長、教授の謝罪会見があり、薬剤師の調剤ミスが原因との記事がありました。

セレンという副作用の多い、毒性が強い元素が使われていたことと0.5 $\mu$ g溶液を院内製剤を調剤するのは手間がかかり、これと同時期に東大薬学部が独立法人東大薬学部としてブロッコリン錠（ブロリコ）を特別機能薬用食品としてインターネット通信販売に踏み切りました。

今年の1月末に岡山大学医学部は文科省から昨年は50万円の研究費が来たのみで、これでは地方の大学では研究ができないと嘆いている記事が読売新聞に載った。岡山大学病院は独立機能法人であるが管轄は厚生労働省であり、研究とは関係がない。

富山薬学部も平成17年頃に独立法人富山薬学部の名乗りを上げましたが、現在の研究開発活動の状況はいかがでしょうか。富山大学基金は五福にありますが、海外留学支援が主で、創薬の研究費になっていないと思われま

す。卒業生の中にはエーザイ、旧第一製薬、旧山之内、旧田辺、武田で新薬開発をされた方がいらっしやいます。

現在薬の研究開発は生化学分野の研究で農芸化学出身が多く、東京農工大、岐阜大学、東京大学等の卒業生が抗生物質、スタチン製剤等を製品化してグローバルに販売されて、グローバル企業になっている。

薬学で開発いたした薬は富大薬学薬物教室の非常勤講師の野口照久先生(旧帝人取締役。山之内副社長、サントリー副社長)の影響を受けられたかたが多いといわれております。薬学部ではそれ以前では唾液ホルモンの錠剤が東大から旧帝国臓器、岐阜薬科大からブクローム、新潟薬科大学からベイスン錠、等、が国内で売られている小型な薬が大半でありました。

漢方、ビタミン、ミネラル等、ホルモン等、自然界に存在するものは特許が取れませんので、ブロリコはグローバル的にはサプリメントの分類に入ります。

和漢薬研究所があるから新医薬品の研究開

発が出来るわけではありません。

創薬科のカリキュラムを組み直さなくては今後の薬学の未来はありません。

富山大学薬学部、東京大学薬学部はじめとする文科省からの研究費を多く貰っている薬学部は農学部農芸学部（生命学部）を見習って研究してほしい。待ったなしの課題です。

⑫、S30年卒 佐藤 哲男

私は昭和30年卒（第42回）で故百瀬雄章さん（母校教授）と同級です。高木良造さんは2年後輩です。富山大学在学中は（昭和26年～30年）、岩瀬浜にあった学生寮で高木さんや百瀬さん、故吉井英一さん（母校教授）、などと一緒でした。懐かしい思い出です。現在、富山大学和漢薬研究所所長の松本欣三さんは、私が千葉大在職中の教え子です。我々の同級生は70名が卒業し、その中で31人が亡くなりました。首都圏在住の同級生（首都圏薬三会）7～8名が毎年1回集まっていますが、毎年1～2名が亡くなって寂しい限りです。私は70歳くらいまでは首都圏薬窓会に参加していましたが、それ以後は失礼しています。亡くなった柿崎さんとは同郷（秋田）で、生前お会いしました。

別件。2014年に友人、知人の勧めがあって、健康に関するブログ「メディカルトーク」を立ち上げて毎月1日にアップしています。URLは下記の通りです。

<https://redrb.heteml.jp/satohtetsuo/index2.html#satoh>

これまで一般市民向けの講演会などで話をしたことを中心にまとめたものです。毎月異なるタイトルで書いていますので読み切りになっています。主として一般市民を対象にしていますので、出来るだけ医学、薬学の専門用語は使わずに平易な表現につとめました。大学の現職の先生、製薬企業に勤務の教え子、一般市民の友人など約200人に送っています。お時間のあるときにご笑覧頂ければ幸いです。

6月17日から22日まで、タイで開催されるアジア毒性学会会議に招かれているため、本年の首都圏支部総会には参加出来ません。ご盛会を祈念します。

㉗、S60年卒 内山 務  
皆様、72回生の内山務です。なかなか薬窓会首都圏支部に顔を出せていないので、この場をお借りして近況報告をさせていただきます。

私は、富山医科薬科大学大学院修了後、7年間の研究者生活（第一製薬）、20年間の社内弁理士（武田薬品工業、エーザイほか）を経て、平成29年4月1日、弁理士として独立開業しました。内山務知財戦略事務所という事務所名で、東京日本橋が事務所の所在地です。東京駅八重洲口から5分以内、地下鉄銀座線日本橋駅から1～2分と、とても便利などころにありますので、近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。

独立開業した理由など事務所HP (<http://uchiyama-ip.com/>)に記載しております。また、連絡先、所在地等もご確認いただけます。ぜひご覧いただければと思います。

開業以来約1年が経過しましたが、製薬企業、バイオベンチャー企業やアカデミアなどの様々な方からご支援を受け、やりがいのある仕事をさせていただいております。

一方、母校には、ここ数年、薬学経済特講の講師として年に1回お邪魔して、後輩たちに知的財産の話をさせていただいております。

今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

## 100字通信

㉘、S15年卒 岩崎 光一  
お陰様で、今年百寿を迎えました。友人が年々少なくなり、寂しい限りです。私は今でも毎日会社に出社し、元気に過ごしています。今後も薬窓会がお互いの情報交換の場となり、ご発展されますよう祈念申し上げます。

㉙、S24年卒 大和 宗雄  
昭和24年卒業し、第1回国家試験に合格して薬剤師となり、2年間勤めた会社が倒産し、昭和27年薬局を開店、以来63年間よく売れました。先輩に東京へ行け!!と勧められたのが

よかった。感謝しています。

㉚、S28年卒 眞船 恒雄  
アインクラブ（第一回卒）東京会は、桜の蕾も散見された上野蓬菜閣で米寿を迎えた、高田、千原、飛田、眞船の4名が元気な顔を揃えました。会は時の流れを忘れ、楽しく学生時代の思い出や、年相応の話題も真剣に討議(?)され、勉強にもなりました。互いの健康を祈り、再会を誓って解散となりました。  
(H20. 3. 19)

㉛、S28年卒 飛田 秀雄  
出席したいのですが1m位しか足が痛く歩けないので残念です。

㉜、S32年卒 高木 良造  
今年の正月は、孫二人をスキースクールに入れる為に、雪深い奥志賀高原に行った。孫達は、スキーは全くの初体験であったが、2時間のスキーレッスンで、リフトに乗って山の上から滑り降りられる様になったのには驚いた。

㉝、S36年卒 川上 惇  
オーストラリアのチロル州にあるイシュグルでスキーを楽しんだ。標高2,000m以上の岩山にスイスと接するスキー場が広がり、ロープウェイとリフトを利用してロングコースを滑り、一週間があつという間に終わってしまった。

㉞、S39年卒 古市 泰宏  
昨年、無事喜寿を通過しました。まだ現役のつもりで研究を続けています。43年前に発見した「キャップという重要な構造と原理」を応用した抗インフル新薬が、最近、塩野義/ロシュから上市され、昔の基礎研究がお役に立ったことを嬉しく思っています。

㉟、S47年卒 井本 直樹  
東に立山・剣岳を仰ぎ、神通川流域・富山市内生まれの古稀 若い頃は団塊の世界と言われた世代、今では高齢化社会の医療・福祉・介護費高騰の象徴 お酒（日本酒）をこよな

く愛し、同窓で月一回の牛タンと会話を愛で  
るこの頃 老いも若きも来たれ三金会

⑥〇、S48年卒 中西 憲幸

ほぼ毎月映画館に足を運び、30本以上の映画を見た。行きつけの映画館は飯田橋のギンレイホールで、シネコンではない、古き良き時代の映画館である。1年間に上映される映画約50本が見放題で10,800円である。珠玉作品に涙し、非日常の世界に浸る。

⑥〇、S54年卒 道見 茂樹

今年も家庭菜園の話題から。長芋は葉の付根にムカゴができ、放っておくとそれが地に落ち大きくなって長芋になるという、無限のサイクルに入ります。秋から冬にかけて全て掘上げたところ、短いものから70~80cm位の長芋が30本以上収穫でき、毎日のように食卓に乗りました。

⑥〇、S56年卒 笹又（清水）理央

平成30年5月末日をもってアステラス製薬を退職し、日本医療研究開発機構に入構する予定です。今後は日本のゲノム医療の発展に貢献していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 平成29年度 首都圏支部活動報告

### 1. 定期総会

平成29年度首都圏支部定期総会

平成29年6月24日（土）ビジョンセンター東京

### 2. 幹事会

第1回幹事会：

平成29年9月7日（木）ビジョンセンター東京

第2回幹事会：

平成30年2月8日（木）AP東京八重洲通

### 3. 平成30年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付：

平成30年2月9日発送

### 4. 平成29年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会：

平成29年3月23日（木）中西、阿部

### 5. 平成29年度薬窓会近畿支部総会：

平成29年6月25日（日）中西

### 6. その他

薬多津三金会（毎月第三金曜日開催）

於：多津よし（東池袋）

五福会 5月24日（水）

於：東京富山会館

11月8日（水）

於：東京富山会館

関東越嶺会（経済学部）講演会・新年会

1月29日（月）

於：東京富山会館

## 総会参加者・年会費納入者 推移

	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
総会 参加者	71名	64	69	61	72
年会費 納入者	237名	282	292	300	286

## 平成30年度 首都圏支部役員

支部長：S48年卒 中西 憲幸

副支部長：S46年卒 加藤 健二  
H8年卒 平岡 良隆

幹事長：S54年卒 道見 茂樹

副幹事長：S61年卒 阿部 弘之  
H2年卒 紺谷 徹

監事：S47年卒 松本茂外志

## 平成29年度会計報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	4,372,661	4,372,661	
年会費	400,000	348,290	
総会参加費	500,000	435,000	
普通預金利息	100	35	
合 計	5,272,761	5,155,986	

  

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	450,000	429,948	
会合費(幹事会等)	60,000	25,920	
事務通信費	120,000	93,043	
同好会補助費	60,000	60,000	
会報発行費	450,000	451,388	
出張費	90,000	90,000	
事務局費	100,000	17,778	
次年度繰越金(普通預金)	3,942,761	3,987,909	
合 計	5,272,761	5,155,986	

## 平成30年度予算(案)

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	3,987,909	総会費	450,000
年会費	400,000	会合費	50,000
総会参加費	500,000	事務通信費	100,000
普通預金利息	41	同好会補助費	40,000
		会報発行費	450,000
		出張費	90,000
		事務局費	50,000
		次年度繰越金(普通預金)	3,657,950
合 計	4,887,950		4,887,950

# 平成29年度 支部年会費納入者一覧

## (合計 286名)

※平成29年4月から平成30年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
35	昭和22	野村哲夫	45	昭和33	大郷利治	48	昭和36	定留温子
35	昭和22	今田 清	45	昭和33	児玉英篤	48	昭和36	高橋芙美子
37	昭和24	井上三郎	45	昭和33	佐藤 忠	48	昭和36	船場定信
37	昭和24	千葉繁治	45	昭和33	佐藤池鶴子	48	昭和36	前田伸子
37	昭和24	山口輝夫	45	昭和33	新森信正	48	昭和36	村杉和子
37	昭和24	大和宗雄	45	昭和33	橋浦十八	48	昭和36	吉田誠一郎
37	昭和24	松岡邦衛	45	昭和33	古谷 隆	49	昭和37	小川信吾
39	昭和26	米丸洋子	45	昭和33	水野一彦	49	昭和37	鈴木国男
40	昭和28	塚田徹夫	45	昭和33	安田孝子	49	昭和37	関戸将裕
40	昭和28	飛田秀雄	46	昭和34	尾嶋司郎	49	昭和37	林 幸子
40	昭和28	眞舩恒雄	46	昭和34	川畑耕祐	49	昭和37	土方久家
41	昭和29	桜井九郎	46	昭和34	齊藤諒三	49	昭和37	廣江光代
41	昭和29	志甫 正	46	昭和34	春山奈津子	49	昭和37	古谷 孝
41	昭和29	前川 昶	46	昭和34	結城澄子	49	昭和37	三尾美和子
41	昭和29	松田利子	46	昭和34	臼井 清	49	昭和37	見義治子
41	昭和29	上銘外喜夫	46	昭和34	森 哲朗	50	昭和38	饗場みゆき
42	昭和30	荒川泰藏	47	昭和35	伊勢谷篤弘	50	昭和38	秋本紀子
42	昭和30	久世啓吾	47	昭和35	市中滋郎	50	昭和38	飯田武治
42	昭和30	佐藤哲男	47	昭和35	梅原 弘	50	昭和38	木原幸弘
42	昭和30	山上高德	47	昭和35	上村恵子	50	昭和38	井田勝三
43	昭和31	上野謙爾	47	昭和35	小国益男	50	昭和38	高野祐子
43	昭和31	落合信雄	47	昭和35	倉石弘一	50	昭和38	武石万里子
43	昭和31	久郷正孝	47	昭和35	須藤昌二	50	昭和38	野中美代子
43	昭和31	車田知之	47	昭和35	関 誠	50	昭和38	福田昌平
43	昭和31	元田 修	47	昭和35	野田久正	50	昭和38	前田一郎
43	昭和31	古徳 治	47	昭和35	古川貞子	50	昭和38	宮澤英雄
43	昭和31	本多 存	47	昭和35	牧山嘉昇	50	昭和38	脇谷紀代子
43	昭和31	山岸伸郎	47	昭和35	室生知子	51	昭和39	石塚典子
43	昭和31	脇田秀雄	47	昭和35	安川正巳	51	昭和39	加賀美壯一
44	昭和32	岩崎 朗	47	昭和35	安川椒子	51	昭和39	島田庄蔵
44	昭和32	紙谷得子	47	昭和35	若林庸夫	51	昭和39	島田輝子
44	昭和32	車田千秋	47	昭和35	橘 眞郎	51	昭和39	諏訪庸夫
44	昭和32	鈴木芳子	47	昭和35	城宝史郎	51	昭和39	塚越由美
44	昭和32	高木良造	48	昭和36	安宅久弥	51	昭和39	那須邦久
44	昭和32	高瀬清孝	48	昭和36	油木劭之	52	昭和40	小野澤カツ子
44	昭和32	種井健治	48	昭和36	川上 惇	52	昭和40	廣瀬南海子
44	昭和32	林 吉孝	48	昭和36	久保一夫	52	昭和40	星野洋子

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
53	昭和41	安西慶子	56	昭和44	横山司甫	61	昭和49	戸谷賀代子
53	昭和41	岩崎孝一	57	昭和45	天笠之珠子	61	昭和49	中村直隆
53	昭和41	金井玲子	57	昭和45	伊藤要一	61	昭和49	和田健司
53	昭和41	木村信子	57	昭和45	北野栄一	62	昭和50	関 敏美
53	昭和41	坂本理英子	57	昭和45	佐々木由紀子	62	昭和50	西山信右
53	昭和41	中村和子	57	昭和45	中島和彦	62	昭和50	萩野洋子
53	昭和41	深田和代	57	昭和45	長瀬政雄	63	昭和51	泉 眞美
53	昭和41	曲淵徹雄	57	昭和45	服部 仁	63	昭和51	関 郁代
53	昭和41	南 法夫	57	昭和45	藤村元成	63	昭和51	高橋裕子
53	昭和41	村上則彦	57	昭和45	松林久一	63	昭和51	萩野幸司
54	昭和42	市川 愉	57	昭和45	奥村淳子	63	昭和51	和田仁美
54	昭和42	市川春子	57	昭和45	古屋典子	64	昭和52	坂口一夫
54	昭和42	金森朱美	57	昭和45	水株陽子	64	昭和52	西山 祥
54	昭和42	小木曾周子	58	昭和46	石井誠司	64	昭和52	真船英一
54	昭和42	佐藤和恵	58	昭和46	石田行知	65	昭和53	金本郁男
54	昭和42	庄司孝市	58	昭和46	上田宗央	65	昭和53	山田健久
54	昭和42	庄司幸子	58	昭和46	加藤健二	65	昭和53	渡辺茂美子
54	昭和42	長谷見蓉子	58	昭和46	河内秀明	66	昭和54	鹿田史紀
54	昭和42	森川礼子	58	昭和46	千田耕平	66	昭和54	加藤浩嗣
54	昭和42	竹内美千代	58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	金子美代子
55	昭和43	阿部 啓	58	昭和46	松田閑枝	66	昭和54	川崎英之
55	昭和43	石橋嘉夫	58	昭和46	三石知恵子	66	昭和54	草柳淳子
55	昭和43	井上みどり	58	昭和46	村上 学	66	昭和54	鈴木千世
55	昭和43	梅本美智子	58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	真船恭子
55	昭和43	太田晴美	58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	道見茂樹
55	昭和43	鈴木 隆	59	昭和47	井本直樹	66	昭和54	道見優子
55	昭和43	滝沢春美	59	昭和47	駒田由美子	67	昭和55	曾我真理子
55	昭和43	布施米子	59	昭和47	清水善行	68	昭和56	木村須賀子
55	昭和43	牧野由紀子	59	昭和47	松本茂外志	68	昭和56	益見厚子
55	昭和43	松野 萌	59	昭和47	三輪 保	68	昭和56	笹又(清水)理央
55	昭和43	南 菖子	60	昭和48	加藤マリ子	69	昭和57	小林真弓
55	昭和43	井上満子	60	昭和48	大西美知子	69	昭和57	須藤喜子
55	昭和43	奥村啓輔	60	昭和48	田中加代子	69	昭和57	塚本尋子
55	昭和43	山口節子	60	昭和48	末木愛子	69	昭和57	竹内 誠
56	昭和44	加藤正子	60	昭和48	田谷栄子	70	昭和58	浦本博志
56	昭和44	金 知出	60	昭和48	中島徳子	70	昭和58	遠藤義之
56	昭和44	鈴木英世	60	昭和48	中西憲幸	70	昭和58	工藤知子
56	昭和44	塚田淳美	60	昭和48	水野洋子	70	昭和58	茂呂今日子
56	昭和44	深澤 宣	60	昭和48	守屋 修	71	昭和59	黒田豊志
56	昭和44	三石史郎	60	昭和48	丸山公代	71	昭和59	小暮政恵
56	昭和44	山岸悦子	61	昭和49	清永城右	71	昭和59	近藤高史
56	昭和44	加藤正子	61	昭和49	杉林堅次	71	昭和59	小澤佐余子



回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
71	昭和59	鈴木敏彰	77	平成2	織部幸子	89	平成14	設楽邦夫
71	昭和59	松井哲夫	78	平成3	坂東裕志	89	平成14	伏木洋司
72	昭和60	朝比奈正晴	79	平成4	鈴木 寧	90	平成15	山木陽子
72	昭和60	小林 讓	82	平成7	海野春香	91	平成16	小倉美世子
73	昭和61	阿部浩之	84	平成9	金子卓嗣	92	平成17	成瀬明穂
73	昭和61	阿部裕子	84	平成9	木村 徹	93	平成18	齋藤智之
73	昭和61	石坂浩文	84	平成9	宅和知文	95	平成20	市原克則
75	昭和63	鈴木宏和	84	平成9	石崎雅之	97	平成22	宅間祐太郎
76	平成元	朝倉 渡	84	平成9	膝附由香	99	平成24	今井亮太
76	平成元	折戸哲也	84	平成9	森山明子	102	平成27	小原直人
76	平成元	小林史明	85	平成10	石嶋文枝			旧職員及び大学院修了生 渡辺和夫
76	平成元	滝口洋子	85	平成10	堀口(高瀬)明子			旧職員及び大学院修了生 中込和哉
76	平成元	畠山伸二	86	平成11	鈴木智之			旧職員及び大学院修了生 根本信雄
77	平成2	紺谷 徹	86	平成11	戸前昌樹			旧職員及び大学院修了生 大橋養賢
77	平成2	増本純也	87	平成12	森口博行			旧職員及び大学院修了生 竹口紀晃
77	平成2	山本善一	88	平成13	内野 章			
77	平成2	齋藤みのり	89	平成14	狩野江利加			

## お知らせ

富山薬窓会のface bookを開設しました。  
下記から入ってください。みなさま方の連絡、  
情報交換等にご利用ください。  
また、中西支部長、畠山さん（72回）と私が管  
理者になっていますが、face bookにあまり詳  
しくないので、詳しい方のお手伝いを募集して  
います。

<https://www.facebook.com/groups/173522309970885/about/>



## 薬多津三金会 今年の開催日

5月18日（金）、6月15日（金）、7月20日（金）、8月17日（金）、9月21日（金）、  
10月19日（金）、11月16日（金）、12月21日（金）

毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分頃から牛タンを食べながら呑んでいます。

多津よし 東京都豊島区東池袋5-9-6

有楽町線「東池袋4番出口」より徒歩3分

電話：03-3985-8776

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

これまで、支部の資産減少対策として、年会費1000円以上への変更、利便性を上げるためのコンビニ振込の採用などの策を採ってきました。

いまだに赤字状態は続いているのですが、これらの効果で赤字額が改善しつつあります。この趣旨を汲んでいただき、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度1,000円が入金されることとなります。

また、このコンビニでこの用紙を使用する場合、振込金額の変更はできないため、別途支部活動への寄付金用の振込用紙を同封してあります。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

## — 編集後記 —

今年の首都圏遠久朶には「近況報告」として、昨年の支部総会出欠ハガキの通信欄の内容、事務局へ送られてきた投稿を掲載しました。また、百字通信にも富山薬専卒の大先輩方からとてもお元気な様子をいただき感動しています。

薬窓会首都圏支部のFace bookを安居近畿支部長に作成していただきました。三金会、五福会の案内を始め、様々な連絡や情報交換等にご利用ください。

首都圏支部の資金減少は、相変わらず最大の懸案事項です。何とか現状の年会費を維持しつつ、首都圏遠久朶の発送を継続したいと考えていますが、年会費を2000円に上げることを真剣に考える時期にきているように感じます。首都圏支部の運営を若い世代にきちんと引き継ぐためにも、総会や遠久朶をこれまで以上に魅力があり、充実したものとすべく、役員一同これからも努力を続けていく所存ですので、ご協力をよろしくお願ひ致します。

ここ数年、富山での本部総会後の卒業謝恩会に支部長他が出席して、首都圏に就職する新卒生に首都圏支部を紹介し、就職後の連絡先を聞き出して連絡しています。今年もまた新卒者の総会への出席が期待されますので、皆様の定期総会へのご出席をよろしくお願ひ致します。

(幹事長 ㊦、S54年卒 道見 茂樹)

## 事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株) 同窓会事務局 : info@egaomax.com

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道 見 : toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

## 平成30年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成30年6月23日（土） 14時00分～18時30分

場 所：昨年と会場が変更になっています。

総 会「AP東京八重洲通」7階 F室

懇親会「AP東京八重洲通」12階 F+G室

住 所：東京都中央区京橋1-10-7（東京駅八重洲口地下街24番出口）

<https://www.tc-forum.co.jp/kanto-area/ap-yaesu/>

電 話：03-6228-8109

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合 13,000円）

平成16年3月～平成25年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成26年3月～30年3月）：無料

話題提供 ① 手賀 悠真氏（第104回卒）

「血液と脳の物質交換を制御する薬物運搬体」（帝京大学）

② 折戸 哲也氏（第76回卒）

「12年前、ひとりから始めた医薬品開発受託会社（CRO）、

ドタバタ起業奮闘記」（DOTワールド株式会社）

\* 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。

\* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





平成29年度葉窓会首都圏支部総会（平成29年6月24日、於 ビジョンセンター東京）